

## コロナ禍でのカナダ留学

Department of Laboratory Medicine and  
Pathobiology and Tanz Centre for Research in  
Neurodegenerative Disease  
University of Toronto

一萬田 正二郎

(富山大学学術研究部医学系法医学講座)

コロナウイルス感染の流行の影響で、2020年秋に予定していたトロント大学への留学が延期となっていました。最終的に2021年8月下旬にカナダに入国することができました。当時はワクチンパスポートを所持していれば入国後の隔離が不要になった直後であったため、空港が大混雑しており入国に6時間以上かかってしまいました（空港でこのまま日本に戻りたいと本気で思っていました）。また、入国後も留学関連の手続きを担う施設が閉鎖されてしまっていたためメールのみで手続きを進めなければいけなかったり、ラボにいる人数を制限するため在宅ワークをしなければならないこともあり、研究が進められるのか不安な日々を過ごしました。

そんな中においても留学先の Kovacs Lab の研究に対する情熱は素晴らしく、新たな機器や検査キットが次々と導入され、今までは想像もつかなかったような実験が行えるようになってきていることに驚きました。また最新の実験のみならず、古典的な免疫組織化学を用いた神経病理学的解析も並行して行っており、渡航後わずか半年で原著論文を *Journal of Alzheimer's Disease* に書かせていただきました。

さらに、研究以外にも多くの体験をさせていただいています。トロントはまさに“人種のサラダボウル”といった言葉がふさわしい都市であり、いろいろな価値観に触れることができます。私はこれまでほとんど海外に出たことがなかったため、非常に新鮮に感じます。また、ナイアガラの滝に代表される雄大な自然も楽しむことができます（写真）。そして、いろいろな国の人と意思疎通ができる英語のありがたみを実感している一方で、もう少し英会話を勉強してくるべきだったと反省もしています。

また留学の途中であり、これからどのような経験ができるか毎日わくわくしています。しかし現在、円安が急速に進行しており、経済的な負担が増してきています。さらに、カナダでは物価も上昇してきており、家賃も毎年のように上昇しています（私の場合、70ドル程度値上げされました）。個人的には、楽しみにしていたカナディアンウイスキーが日本で購入するよりも圧倒的に高かったことがショックでなりません…（ビールは同じくらい）。また、私の借りた部屋は家具なしだったため、これらを購入する必要がありました。このように留学にはお金がかかります。上原記念生命科学財団のご支援がなければ、生活の質がかなり低

下していたと思います。生活の質の低下は研究の質の低下につながるため、関係者の方々は心より御礼申し上げます。あと1年と少しですが、よりよい研究結果が出せるよう精進していきたいと思います。



ナイアガラの滝。写真中の船に乗れば滝の直前まで近づくことができます。  
留学中に一度は乗ってみたいです。

## Toronto 留学記

University of Toronto

谷津 翔一郎

(順天堂大学医学部附属静岡病院)

2021年7月より、カナダの University of Toronto (UoT), Division of Respiriology に留学をさせていただいております。私は循環器内科医ですが、大学院時代に心不全と SAS の研究を中心に行っておりました。私の PI である Bradley 先生は、Respirologist でありながら、循環器疾患と SAS、特に心不全の SAS に関する研究を中心に research を行っています。世界的に見ても本施設以上に当該分野に長けている研究室はないと思い留学先として希望させていただきました。今回私がこちらで行っている研究は、心不全患者に対する陽圧換気療法の一つである ASV 治療の大規模臨床研究 (ADVENT-HF) において、心エコー上のパラメーターの変化を研究させていただいております。今まで研究期間 10 年以上に及ぶ大規模臨床研究、それも世界中から集まったエコーデータということで、データの管理面等で色々と苦勞をする部分があります。今は、本研究のメインアウトカムの発表に向けて、慌ただしく動いており、世界規模の研究に携われることを誇りに思いながら、自分も世界に向けて発信できるよう日々努力しております。

トロントはオンタリオ州にあるカナダ最大の都市で、UoT もカナダで最大、北米全体でも 5 番目の規模を誇る総合大学です。UoT 関連の病院もたくさん有しており、トロントのダウンタウンにはその病院群、研究施設が立ち並んでいます。私はその中で Toronto Rehabilitation Institute (TRI) にある Sleep Lab と Toronto General Hospital (TGH) にある心エコー室を行ったり来たりしながら研究のデータを集めさせていただいております。言語の壁はありますが、カナダは先進国で最も移民を受け入れている国で、トロントの人口 260 万人の半数は外国生まれとも言われており、片言の英語も受け入れられています。アジアのマーケットも多く、食事にもあまり困りません。私は妻と子供 2 人 (長男 5 歳、次男 2 歳) と渡加していますが、周りに日本人のフェローや駐在の方も多く、また自然も多いので家族で留学するには非常に良い環境だと思います。

コロナ禍での留学ということで、私の渡航時はちょうどワクチンを打ち始めた時期でしたが、飛行機の予定や渡航制限もコロコロ変わり、常に情報収集に追われていました。また、書類もワクチンの証明から何からやるが増えているで大変でした。こちらに来てからも、ラボに人があまりいないので英語を喋る機会がほとんどないなど色んなコロナ禍ならではの体験もさせていただいています。しかし、このような経験も通常の臨床を続けているだけでは出来ないことなので、前向きに捉えながら色んなことを吸収して帰れるよう日々努力して

おります。

今回留学に際して、上原記念生命科学財団様には多大なる支援をいただき感謝しております。今後も日本の医療に還元できるように精進してまいります。



Toronto General Hospital の風景